

アタオザル (性別不明)

生年月日2020年9月14日
 父親:不明
 母親:ショウコ

こんな動物

分類:サル目オナガザル科
 分布:東南アジア
 食性:果実、木の实などの雑食性



樹上で生活するので、生まれてまもなく母親の体に手足でしっかりつかまり、移動するとき落ちないようにしています。(足も手のようにつかめる形になっています)



生後すぐは視力が弱いのか周囲を見ることはなかったのですが、生後1カ月を過ぎると周りに興味を持ち始めるようになりました。
 初産のショウコは仔の扱いがたどたどしかったのですが周りのメスたちのサポートもあり、現在は慣れた様子で子育てをしています。
 仔は母親の手の届く範囲で行動し、母乳を飲んですくすく成長しています。(授乳期間はおよそ1年)。

商品紹介

HIRAKAWA SNACK STAND

平川動物公園おすすめのライトスナックをご紹介します!
 ぜひ一度食べてみてくださいね!



スモークチキン(3本) ¥280

ジューシーな手羽元を一口サイズにした、気軽に食べやすいチキン。まるでマンガ肉のような見た目も楽しい!



チュリトス ¥280

平川動物公園のロングセラー定番商品!片手で食べられるから、園内めぐりのおともにもどうぞ!



パンダフルトゴマまん(ゴマあん)&肉いね!!アタまん 各¥150

ミニサイズのゴマまん和肉まん。見た目は可愛いのにどちらも本格!中華街の味!



鹿児島市 平川動物公園

携帯サイトへアクセス!



〒891-0133 鹿児島県鹿児島市平川町5669-1
 TEL.099-261-2326 FAX.099-261-2328
 ■開園時間:午前9時~午後5時(入園は午後4時30分まで)
 ■休園日:12月29日~1月1日
 URL <http://hirakawazoo.jp/>
 Facebook <https://ja-jp.facebook.com/hirakawazoo>
 Twitter <https://twitter.com/hirakawazoo>
 動物取扱業の種別:展示 登録番号:生衛動取 第357号 登録の年月日:H28.5.11
 有効期間末日:R3.5.11 動物取扱責任者:桜井普子

ZOOっと平川 vol.28 2021年1月発行

編集・発行



〒892-0816 鹿児島市山下町15番1号
 TEL.099-221-5055 FAX.099-223-5690
 URL <http://k-kouenkousya.jp>
 Facebook <https://ja-jp.facebook.com/k.kouenkousya>

ZOOっと平川



特集1

モー烈!ウシの仲間たち

特集2

マサイキリンのアヤトのアフリカ園デビュー

特集3

園内バスを受贈しました!

モー烈!

ウシの仲間たち

年が明けて2021年、今年の干支はウシ(丑)!十二支のお話に登場するウシは、誰よりも早く出発して神様のもとへ向かったにもかかわらず、いつの間にか背中に乗っていたネズミに先を越されてしまうというなんとも気の毒な役回りでした。野生だけでなく、家畜としても人間と共に長い歴史を歩んできたウシ科動物についてご紹介します。



ウシは何の仲間?

ウシの仲間は、「鯨偶蹄目」というグループに属します。二つに分かれたヒヅメを持つか、かつてヒヅメを持っていた動物たちはすべてこのグループです。名前に「クジラ」とあるとおり、なんとイルカやクジラも「かつてヒヅメをもっていたもの」として同じグループに入っているんです!今回の特集では全て紹介しきれないので、なかでも特にウシに近い仲間「ウシ科」の動物についてお話します!

ウシ科の特徴

洞角

ウシ科の角は「洞角」といって、角の形をした骨の外に角鞘(中が空洞になった角)が被さったかたちをしています。シカと違い、抜けたり生え変わったりすることはありません。メスにも生えます。



家畜としての利用

ウシは乳用・肉用として世界中で飼育されています。約1万年前、オーロックスという野生のウシを飼いならし、用途に合わせて品種改良していった結果、現在の家畜ウシが生まれました。オーロックスは人間による乱獲・家畜化により、残念ながら約400年前に絶滅しています。



家畜としてのウシ

ホルスタイン

ホルスタインは牛乳を取るためのウシ、「乳牛」として飼われます。特徴は何といってもこの白黒模様と、乳量(お乳の搾れる量)が非常に多いことです。一頭あたり年間5000kgの牛乳を搾ることができ、通常お店に並んだり、給食に出るのはこのホルスタインのお乳です。



口之島牛

鹿児島県の十島村、トカラ列島の口之島にのみ生息する、在来牛(もともと日本で飼われていたウシ)です。もとは人に飼われていた家畜でしたが、野生化したものが定着しました。小さい体と引き締まった下半身が特徴で、平安時代の絵巻に登場する牛車を引くウシの形質を最も残しているのが口之島牛と言われています。



平川動物公園のウシ科

バーバリーシープ

学名: *Ammotragus lervia*

生息地: 北アフリカ

食性: 主に草

ヤギやヒツジに近い動物で、たてがみのように生える毛と長さが75cmにもなる巻いた角が特徴です。北アフリカの高地で暮らしており、平川動物公園では生息地が同じであるマントヒヒと一緒にくらしています。



トカラヤギ

学名: *Capra hircus*

生息地: 鹿児島県トカラ列島

食性: 主に草

鹿児島県のトカラ列島で飼われてきたヤギです。1500年前に家畜のヤギが中国や朝鮮半島から人と共に日本に渡ってきたのがルーツといわれ、背中の中心に一本の黒い線(鰻線)があるのが特徴です。



ヒツジ(サフォーク種)

実はヒツジもウシ科の仲間!6年後に未年があるので、その時に改めてご紹介します!お楽しみに♪



ホッキョクグマのカナが 天国に旅立ちました

2020年10月13日、ホッキョクグマのメスのカナが亡くなりました。カナの推定年齢は30歳。ホッキョクグマの平均寿命が25~30年と言われる中、とても長生きしてくれたと思います。実際カナは、国内に生存するホッキョクグマの中では2番目に高齢の個体でした。亡くなる前日まで餌を食べ、日中は屋外で日光浴、たまにプールに入って気持ちよさそうに水遊びをするなど、とても元気に過ごしていました。まだしばらくは一緒に過ごすことができると思っていただけに、突然の訃報に気持ちの整理が追いつかない状況ですが、カナが過ごした日々を多くの方に知っていただけたらと思います。



▲旧シロクマ舎でのカナ

カナは、1991年にカナダからやってきました。当時、平川動物公園では、ユキというメスが1頭だけ飼育されていましたが、オスのホクトと一緒に導入され、3頭での生活が始まりました。

ユキが亡くなってからは、ホクトとカナの2頭で過ごすこととなりました。運動場やプールで仲良くじゃれあっている姿も見られ、繁殖にも期待がされていましたが、残念ながら仔を授かることがないまま、2015年にホクトが亡くなると、以降、カナは1頭で過ごしていました。



▲ホクトとカナ



▲ホクトとカナ

1頭で過ごすこととなったカナは、高齢のためか、あまりプールに入って遊ぶなどの活発な行動が見られなくなってきました。食べる餌の量が減ったりすることもあり、心配で気が気でない毎日を送っていた飼育担当者は、少しでもカナに楽しく幸せに過ごしてもらえるように、運動場やプールに杉丸太やボールなどのおもちゃを入れてみたり、通常与える餌とは別の食材をスーパーで買ってきて与えてみたり、思いつく限りのアイデアを実践していました。そのような取り組みの甲斐あり、カナがおもちゃを追ってプールに飛び込んでくれた時の感動や買って来た食材を完食してくれた時の安堵の気持ちは、今思い出しても涙が出そうになります。



▲カナが遊んでいたおもちゃ



▲カナが食べていた餌

カナが亡くなってからこれまでにたくさんのお花や哀悼のメッセージが全国から寄せられています。どれほどカナが、ホッキョクグマたちが愛されていたのかを改めて知り、感謝の気持ちで胸がいっぱいです。



カナをはじめホッキョクグマたちが残してくれた財産を無駄にしないためにも、これからも彼らからのメッセージを発信し続けていきたいと思います。そして、自然に生きるホッキョクグマが将来にわたって幸せに暮らしていけるような環境を守っていくことこそが、私たち人間が彼らにできる恩返しだと思っています。



▲西一男鮮魚店の氷のプレゼント



▲セイカ食品の氷の贈呈式

毎年夏休み期間中、氷をプレゼントして下さったセイカ食品株式会社様、西一男鮮魚店様、長きに渡りご支援いただき誠にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

マサイキリンの アヤトのアフリカ園 デビューについて



2020年5月31日朝、キリン舎に行くときアヤトの母親、アヤメが死亡して
いました。
その夜、アヤトは初めて1頭で部屋の中で過ごしましたが、なかなか落
ち着かず歩きまわっていました。
母親アヤメはアヤトといつも一緒に過ごし、アヤト自身、生後1年1ヵ月
でそろそろ離乳となる時期で、1頭になった不安から餌を十分食べてい
ないようでした。そこで、落ち着かせるために、翌日、父親のハートと兄の
ハヤテとの同居に踏み切りました。今まで寝室内の柵ごしに顔を見て過
していたからか、同居を開始したとたん兄のハヤテがアヤトの匂いを嗅ぎ
に顔を近づけ、アヤトも落ち着きをとれどし、しばらくしたら餌を食べる
姿もみられました。数日3頭同居で寝室横の運動場とパドックで日中を過
ごし、いよいよアヤト初めての広いアフリカ園での展示開始です。期待と
不安が入り混じった気持ちでアフリカ園の入り口を開きましたが、肝心の
アヤトが手前で立ち止まり、他の2頭がアフリカ園に出て行くのに、一歩も
出ようとしません。兄のハヤテは母親のアヤメについて行きすなり出た
のですが、今回母親アヤメがいないことと、キリンはもともと警戒心が強
い動物で、新たな環境に慣れるのに時間がかかることもあり、好物の木の
葉で誘っても、まったくアフリカ園に出る様子がありません。

それから1ヵ月たった7月1日、いつものようにアフリカ園入り口で木の葉で誘導していたら、ようやく前足だけ踏み出してくれました。
しかし、完全には出てくれませんでした。



数日入り口で前足だけ出す動作をくりかえしたある日の朝、完全に出てくれました。



あわててアフリカ園の門を閉め様子を見ます。ダチョウに興味を示して後をついていたり、おそろおそろの周りを確かめたりしていましたが、しばらくしたら兄のハヤテと餌を食べ始め
落ち着く様子が見られ安心しました。今ではハヤテと一緒に餌
を食べたり、アフリカ園を走りまわったりしています。



アフリカ園での
元気なアヤトの様子を
ぜひ見に来てください。



園内バスを 受贈しました!

セイカ食品株式会社から、会社設立100周年を
記念して寄贈された新型園内バス「南国白くま
号」が、夏休み初日の8月1日から運行を開始いた
しました!

外装



ホッキョクグマをイメージしました



ナンバープレートもシロクマ(4690)

外装はかわいくデザインされており
写真撮影にもびったりです。(走行中は
危険ですので停車時をお願いします。)
側面にはホッキョクグマ達の生活シー
ンを表現しています。また、窓にはい
ろいろな動物達のシルエットがあしら
われています。

様々な動物達がお出迎えます。その
動物の特徴を感じ取っていただけるよう
動物図鑑のように仕上げてあります。
バス内から外の動物たちを見てまわる
事はできませんが動物のイラストを見
ながら楽しく園内を移動してくださいね。

内装

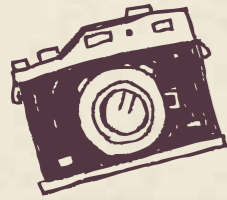


シートはナチュラルカラー



その他

バリアフリー対応「ノンステップバス」
乗車定員26名(安全確保のため座席数の
15名を乗車定員としています。)
9時15分から15分おきに、園内を走行して
います。



第12回平川動物公園フォトコンテスト

第12回鹿児島市平川動物公園フォトコンテストを開催しました。
コロナ禍の中たくさんの素晴らしい作品を応募していただきありがとうございます。

1.募集のテーマ

【動物部門】平川動物公園の動物
【風景部門】平川動物公園で見られる風景
及び錦江湾公園で見られる風景、植物

2.募集期間

令和2年5月1日(金)～令和2年7月3日(金)
※撮影期間:令和元年7月1日～2年6月30日の1年間

3.応募点数

()内は昨年度
応募者 100名(113名)
動物部門 166点(207点)
風景部門 63点(58点)
計 229点(265点)

4.審査員

日本写真作家協会会員/星原 昌一 氏
南日本新聞社写真部長/竹山 秀司 氏
写真家/鶴田 正 氏

最優秀賞



鹿児島市長賞「楽しい日」 鮫島 孝 様

講評

- 楽しい家族写真で、コロナ騒ぎで暗くなりがちな時代にホッとさせてくれる。
- それぞれの表情がいい。家族で動物園に行けることが普通の日常だと思っていたのに、今の状況ではそのありがたみを感じる。そんなことを考えた一枚。
- 人物の配置とサルの手とぶら下がり、動きと「かわいい!」の声が聞こえる構図、シャッターチャンスをよくとらえている。

南日本新聞社賞

「もう食べたも〜ん」 池田 佐矢香 様

講評

- いいアングルでとらえてある、近くでこのようなタイミングで撮られてよかった。
- 人間の子どもがじゃれているみたいでかわいい、ユニークさで目を引く。
- これまで生態動物の写真を見てきましたがこのように親子へ確認するというポーズを初めて見ました。ピントもしっかりしている。



特別賞

公園公社理事長賞「くねくねダンス」 内田 則夫 様

講評

- 最近女の人や子供たちが良く踊っているダンスに似ているユーモアがいつぱいのタイミングでほほえましい写真だ。
- リズムに乗って踊っているように見える瞬間の切り取りがうまく行った。しなやかな動きが魅力的。
- 写真として構図もしっかりしている。何回かシャッターを切ってもこのポーズは2度としないのではないか。



特別賞

平川動物公園長賞「分身を背負う」 田村 洋一 様

講評

- クマの表情がとらえられ楽しくなってくる。水の中とも思えずなんだろうと楽しませてくれる。
- 反射のおもしろさを生かした、パッと見てどうなっているかわからない感じが目を引く。
- シャッターチャンスに恵まれ写真にして発表するという技術の高さを感じた。隙のないシンメトリーな構図、どちらが上下かわからないような審査員を惑わす写真です。

総括

- 望遠レンズで動物の表情をアップでとらえた写真は目を引くが同じ狙いの応募作が多くなってしまふ面もある。
- 写真家が何回か通って得意の動物を見つけ、隙なくシャッターが押されている写真が多く感じた。

星原昌一様から最後の審査にあたってご挨拶をいただきましたので紹介します。

動物の写真撮影はむづかしい。自分の思うように動いてくれない、じっと対象とにらみ合いが続く。少しの油断が失敗につながる。私も野鳥の撮影では苦労をしたことが多く夏の暑い日に稲田の畔に、ブラインドを張り日がな一日対峙したこともありました。

ヒクイナでしたが身を動かすこともできず水も飲まずひたすらに狙いを待つなど、数々の野鳥の撮影で苦労したのを思い出します。

初めての動物写真は50年ほど前、オーストラリアを車で横断したとき、コアラ、ウォンバット、カモノハシ、カンガルーなどとの出会いを、夕刊に掲載した時。コアラが若い女性に人気なのに驚き、「かごしまにコアラを連れてこよう会」を作ろうとなり後に現実になった時はびっくりしました。

海底写真、野の花と取材を続け「はばたけ野鳥」にも取り組みましたが、まだ野鳥に興味のある人が少ない時代でした。そのころ動物園の菖蒲園撮影会の写真コンテスト作品審査依頼を受け、微力ながら手伝わせて頂きました。動物が主力に変わり、正確には記録がないために分かりませんが30数年になると思います。皆様の傑作を見させていただきました。

皆様はこれからも動物たちと楽しい出会い、一瞬を大切に傑作をものにしてください。

星原 昌一



第48回平川動物公園夏休み動物スケッチ大会

動物愛護週間(9月20日～26日)行事の一環として、当園の動物を題材にした絵を描くことで、動物や自然を愛する心を養うとともに豊かな情操をつちかうため、夏休み動物スケッチ大会を開催しました。

1.募集のテーマ

平川動物公園内の動物を描いたものであれば自由

2.対象

小学校児童及び幼児

3.募集期間

令和2年7月11日(土)～
8月10日(月・祝)

4.応募点数

288点

5.審査員

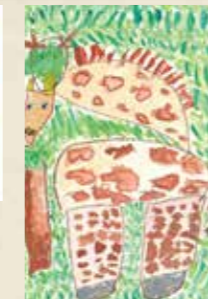
市教育委員会美術館
林 裕一郎 先生
市教育委員会学校教育課
前野 耕一 先生



特別賞
鹿児島市長賞
脇田 梨生 様



特別賞
市議会議長賞特別賞
川元 碧人 様



特別賞
鹿児島市教育委員会賞
大野 恵実 様



特別賞
公園公社理事長賞
永井 あゆ美 様



特別賞
鹿児島市平川動物公園長賞
田代 優太郎 様

講評

親しみを込めた視線でとらえた動物たちの姿が印象的でした。動物の特徴や行動をよく観察し、時には声をかけ同じ動きを真似ながら描いている皆さんの様子を想像することができました。画用紙の縦横をうまく使い動物の体を画面からはみ出して描いたり色塗りの工夫をしたりして動物の迫力やかわいらしさを表現している作品が多かったです。動物の絵を描くことをとおして、心優しい気持ちをいつまでも大切に持ち続ける皆さんの姿が一番素敵に感じられました。

動物の赤ちゃんたちの 名前が決まりました!

新型コロナウイルス感染拡大の影響で名前の公募を見送られていた3頭の名前が決定しました! 例年と違いインターネットでの募集も行いましたが、48日間で1672票(3頭合計)とたくさんのご応募をいただきました。ありがとうございました!

コアラ「ヒマワリ」(メス)

母親:ユメ 父親:バンブラ
令和2年1月10日 出袋
(出袋:お母さんのポケットから全身出てくること)



コアラ「キボウ」(メス)

母親:ジェイン 父親:バンブラ
令和2年5月4日 出袋



チンパンジー「ジャンベ」(オス) ※写真左

母親:モモ※写真右 父親:ラルゴ
令和2年2月15日 生まれ



細長く曲がったクチバシに、目が痛くなるほどの真っ赤な羽が特徴的なショウジョウトキ。ヒナのうちは黒っぽい姿をしていて、3年で大人の羽色になります。繁殖期にはコロニー(集団)を形成し、この頃には全身の赤色がさらに鮮やかに、クチバシは黒く変化します。高い木の上に、枝を組み合わせた直径1m程の巣を作り、2~4個の卵を抱卵、21日程でヒナが孵ります。羽の発色はアスタキサンチンという色素によるもので、特に甲殻類に多く含まれます。南アメリカ大陸北部の海岸や川岸のマングローブ林に住み、カエルや甲殻類、小魚など小さな生き物を食べて生活します。

ZOO 館 どうぶつ

ショウジョウトキ

フラミンゴと間違われることがありますが、その名の通りキの仲間です。しっかりと観察すると、生態に違いがあることがわかりますよ。



① クチバシの形

ショウジョウトキは泥の中に差し込みやすいように、細く長い形をしています。フラミンゴはクチバシの中に水を含み、プランクトンを濾しとって食べるため、より太い形です。



② 足の形

ショウジョウトキは、エサ探しの時は浅い水辺、繁殖や休息をする時には樹上で過ごします。そのため、枝をしっかりと掴めるように長い指があります。一方、フラミンゴの足には水かきがあり、指も短く、細い枝などに止まることはできません。その代わり、すらすらと長い足は、体を濡らさずにより深い水辺を利用するのに適しています。



赤ちゃん紹介

むぜもんじや

むぜもんじや:鹿児島弁でかわいいねの意味

コツメカワウソ バブル(オス)

生年月日:2020年8月25日

こんな動物

分類:食肉目 イタチ科
分布:東南アジア南アジア等
生息環境:河川、溪流等
食性:主に甲殻類、魚等肉食性



生まれた時は白い!!

親は濃い茶色をしていますが、生まれてすぐは真っ白です。目も開いておらず自分で歩けないので親や上の兄弟がお世話をします。



展示場デビュー!!

生後3カ月程で親と一緒に展示場に出るようになりました。魚を取りにプールに入る様子も見られますが、まだ深くは潜れないようです。まだ小さいですがドンドン大きく成長していくので見守っててください!!

チリーフラミンゴ(2羽)

ふ化年月日:2020年9月29日、2020年11月3日

こんな動物

分類:フラミンゴ目フラミンゴ科
分布:南アメリカ
生息環境:高山帯の塩湖や海岸
食性:プランクトン

ふ化して間もない頃は親鳥の下で過ごします。羽の中から「ヒョコッ」と顔をだすことも!



生まれて4~5日たつとそろそろ巣から下り、展示場へのデビューが近づきます...



ふ化してから約1カ月、小さなプールにエサを食べにきている姿に感動!! 初めはどこに行くにも親鳥がついていましたが、1羽で行動する姿が多く見られるようになってきました。



最近の2羽はよく一緒にいます。約1カ月誕生日が違うことで、羽の色やクチバシの曲がり具合など様々な違いがあります。比較しながら観察すると面白いですよ。日々成長する姿に担当者もたくさんのお話を学んでいます。ぜひ会いに来てくださいね!!